

目次

序 口 絵

平安時代の私家集

(一) 私家集の呼称……………三

(二) 家集の意義……………三

(三) 私家集研究の歴史……………二〇

(四) 私家集の特質……………三

(1) 勅撰集・私撰集との相異……………三

(2) 資料蒐集保存の自由……………三〇

(3) 私家集相互の有機的關係……………三三

(4) 私家集の資料的価値……………三六

(五) 私家集の成立……………三六

第一章 大中臣家七歌人の伝記

(一) 大中臣一門と家系……………七〇

(二) 時代概観……………七〇

(三) 文壇・歌壇の概観……………七三

(四) 伝記・交友……………七六

 頼基……………七六

 能宣……………七三

 (一) 伝記……………七三

 (二) 交友……………七四

 (i) 藤原師輔……………七四

 (ii) 右兵衛督忠君朝臣……………七四

 (iii) 一条右大臣(為光)……………七四

 (iv) 粟田右大臣(道兼)……………七四

 (v) 一条院大将(濟時)……………七五

 (vi) 右衛門尉輔昭……………七五

 (vii) 宰相中将延光……………七六

(イ)源重之……………一四七
 (ロ)惠慶法師……………一四七
 (ハ)相如……………一四七
 (ニ)曾禰好忠……………一四七
 (ホ)致頼朝臣……………一四七
 (ヘ)源兼澄……………一五〇
 (ト)平兼盛……………一五〇
 (チ)さねとし朝臣……………一五〇
 (リ)兵庫頭ともとき……………一五〇
 (フ)菅原としとも……………一五〇
 (ユ)よしかと……………一五〇
 (ク)むさしのかみみつすゑ……………一五〇
 (ケ)たちまのかみたぬちか……………一五〇
 (コ)藤原きむまさ……………一五〇
 (サ)友文……………一五〇
 (シ)むまこそ……………一五〇
 輔親……………一五〇
 (一)伝記……………一五〇
 (二)交友……………一五〇
 (イ)堀川中納言……………一五〇
 (ロ)伊勢斎宮……………一五〇

(ハ)閑院大将……………一八二
 (ニ)麗景殿女御……………一八二
 (ホ)源兼澄……………一八三
 (ヘ)源重之……………一八三
 (ト)惠慶法師……………一八六
 伊勢大輔……………一八七
 (一)伝記……………一八七
 (二)交友……………一八七
 (イ)源雅通……………一八七
 (ロ)藤原惟規……………一八七
 (ハ)藤原実資……………一八七
 (ニ)藤原正光……………一八七
 (ホ)藤原能信……………一八七
 (ヘ)藤原道雅……………一八七
 (ト)藤原長家……………一八七
 (チ)藤原家経……………一八七
 (リ)源資通……………一八七
 (フ)藤原兼房……………一八七
 (ユ)源経信……………一八七
 (ク)源信宗……………一八七
 (ケ)藤原師実……………一八七

(幼)紫式部……………一三三
 (和)和泉式部……………一三三
 康資王母……………一三三
 (一)伝記……………一三三
 (二)交友……………一三三
 (イ)藤原経通とその女……………一三三
 (ロ)侍従の宰相……………一三三
 (ハ)源師賢……………一三三
 (ニ)源資綱……………一三三
 (ホ)源顕房……………一三三
 (ヘ)神主国基……………一三三
 (ト)藤原道経……………一三三
 (チ)大江匡房……………一三七
 (リ)藤原能実……………一三三
 (フ)藤原基俊……………一三三
 (ユ)藤原資仲……………一三三
 (ク)四条宮下野……………一三三
 (ケ)前斎院大貳……………一三三
 安芸君……………一三三
 (一)安芸の異同考……………一三三
 (二)文献に現われた安芸……………一三三

(イ)文献に現われた安芸の歌……………一四七
 (ロ)郁芳門院安芸と待賢門院安芸の別名同人説……………一四九
 (ハ)郁芳門院安芸と待賢門院安芸の別人考……………一五〇
 (ニ)伝記……………一五三
 (三)交友……………一五三
 (イ)藤原公実……………一五三
 (ロ)源師時……………一五三
 (ハ)源中納言……………一五三
 (ニ)堀川……………一五三
 (ホ)斎院の大貳……………一五三
 (ヘ)はゞきのめのと……………一五三
 越前……………一五三
 伝記……………一五三
 (イ)七歌人の年譜……………一五三
 第二章 大中臣家七歌人の作歌
 (一)家集の伝本研究……………一五三
 (イ)頼基集……………一五三
 (ロ)能宣集……………一五三
 奉献本……………一五三

- (イ) 頼基の歌…………… 五四
- (ロ) 能宣の歌…………… 五五
- (ハ) 輔親の歌…………… 五五
- (ニ) 伊勢大輔の歌…………… 五六
- (ホ) 康資王母の歌…………… 五六
- (ヘ) 安芸の歌…………… 五七
- (ト) 越前の歌…………… 五七
- (チ) 同語反覆…………… 五七
- (イ) 頼基の歌…………… 五八
- (ロ) 能宣の歌…………… 五八
- (ハ) 輔親の歌…………… 五八
- (ニ) 伊勢大輔の歌…………… 五九
- (ホ) 康資王母の歌…………… 五九
- (ヘ) 安芸の歌…………… 五九
- (ト) 越前の歌…………… 五九
- (チ) 同音異義…………… 五〇
- (イ) 頼基の歌…………… 五〇
- (ロ) 能宣の歌…………… 五〇
- (ハ) 輔親の歌…………… 五〇
- (ニ) 安芸の歌…………… 五一
- (ホ) 越前の歌…………… 五一

- (a) 本歌取…………… 五一
- (イ) 越前の歌…………… 五二
- 二、内容上の問題…………… 五〇
- 素材の範囲・表現の手法 —
- (1) 素材の範囲…………… 五〇
- 頼基の歌…………… 五〇
- (A) 自然歌…………… 五〇
- (B) 人生歌…………… 五一
- 能宣の歌…………… 五七
- (A) 自然歌…………… 五七
- (B) 人生歌…………… 五七
- 輔親の歌…………… 五〇
- (A) 自然歌…………… 五〇
- (B) 人生歌…………… 五〇
- 伊勢大輔の歌…………… 五三
- (A) 自然歌…………… 五三
- (B) 人生歌…………… 五三
- 康資王母の歌…………… 五九
- (A) 自然歌…………… 五九
- (B) 人生歌…………… 五九
- 安芸の歌…………… 六四

- (A) 自然歌…………… 六四
- (B) 人生歌…………… 六六
- 越前の歌…………… 六四
- (A) 自然歌…………… 六四
- (B) 人生歌…………… 六一
- (2) 表現の手法…………… 六七
- 頼基の歌…………… 六七
- (A) 理智的の歌…………… 六七
- (B) 機智的の歌…………… 六九
- 能宣の歌…………… 六一
- (A) 理智的の歌…………… 六一
- (B) 情調的の歌…………… 六九
- (C) 写真的の歌…………… 七〇
- (D) 機智的の歌…………… 七三
- 輔親の歌…………… 七六
- (A) 理智的の歌…………… 七〇
- (B) 情調的の歌…………… 七二
- (C) 写真的の歌…………… 七三
- 伊勢大輔の歌…………… 七五
- (A) 理智的の歌…………… 七六

- (B) 情調的の歌…………… 七九
- (C) 写真的の歌…………… 七〇
- (D) 機智的の歌…………… 七二
- 康資王母の歌…………… 七四
- (A) 理智的の歌…………… 七四
- (B) 情調的の歌…………… 七九
- (C) 写真的の歌…………… 七二
- 安芸の歌…………… 七二
- (A) 理智的の歌…………… 七三
- (B) 情調的の歌…………… 七四
- (C) 写真的の歌…………… 七五
- 越前の歌…………… 七五
- (A) 理智的の歌…………… 七六
- (B) 情調的の歌…………… 七九
- (三) 大中臣(中臣)家と和歌…………… 七七
- 作歌活動 —
- 一、勅撰集載録の和歌…………… 七六
- (1) 拾遺和歌集…………… 七六
- (2) 後拾遺和歌集…………… 七五
- (3) 金葉和歌集…………… 七五

(4) 詞花和歌集	七六	(5) 金玉集	八三
(5) 千載和歌集	七六	(6) 女々集	八四
(6) 新古今和歌集	七六	(7) 三十六人撰	八四
(7) 新勅撰和歌集	七六	(8) 後六々撰	八四
(8) 統後撰和歌集	七六	(9) 新撰朗詠集	八五
(9) 統古今和歌集	七六	(10) 和歌一字抄	八六
(10) 統拾遺和歌集	七六	(11) 後葉和歌集	八六
(11) 新後撰和歌集	七六	(12) 統詞花和歌集	八六
(12) 玉葉和歌集	七六	(13) 女房三十六人歌合	八三
(13) 統千載和歌集	七六	(14) 現存和歌六帖	八三
(14) 統後拾遺和歌集	七六	(15) 秋風抄	八三
(15) 風雅和歌集	七六	(16) 万代和歌集	八四
(16) 新千載和歌集	七六	(17) 雲葉和歌集	八六
(17) 新拾遺和歌集	七六	(18) 柳風和歌抄	八七
(18) 新後拾遺和歌集	七六	(19) 新和歌集	八七
(19) 新統古今和歌集	七六	(20) 新時代不同歌合	八九
二、私撰集載録の和歌	七六	(21) 夫木和歌抄	八〇
(1) 万葉集	七六	(22) 玄玉和歌集	八三
(2) 前十五番歌合	八三	(23) 統現葉和歌集	八三
(3) 後十五番歌合	八三	(24) 藤葉和歌集	八三
(4) 和漢朗詠集	八三	(25) 二八要抄	八三

三、歌合(百首和歌)出詠の歌	八三
四、賀筵出詠歌	八三
(四) むすび	八六
一、宗教と和歌	八六
二、大中臣(中臣)家の和歌	九二

三	二四
四	二四
五	二五
六	二六

第三章 家集本文編 (中臣祐臣家集附載)

よりもと	九二
能宣集	九七
祭主輔親卿集	九一
伊勢大輔集	一〇二
康資王母集	一〇五
郁芳門院安芸集	一〇六
越前	一〇一
自葉和歌集	一三三
卷一	一三六
二	一四〇

(一) 私家集の呼称

私家集という名称が用いられたのは、余り古くはなく、日本古典文学大系月報（第二期六回配本）で、松田武夫博士が「私家集という言葉が出来た頃」に、詳しく説明せられ、その間の事情が理解出来る。それによると、昭和七年三月一五日発行の「岩波講座日本文学」一〇回配本中に、松田武夫博士執筆の『私家集の研究—王朝初期の私家集—』に使用されたのが最初であるが、博士は「昭和七年三月といえ、私が昭和五年三月東大の国文科を卒業し、池田亀鑑博士の源氏物語研究の手伝いをしていた最中である。その間、昭和六年二月から十一月までの十ヶ月間は、幹部候補生として広島野砲兵第五聯隊に入隊させられ、国文学研究が遮断され、ようやく除隊後上京して間もない頃、岩波書店からこの『私家集の研究』の題目を与えられ、その要請に答えたのが、この小論考であった。その頃岩波講座日本文学の編集には、西尾実、池田亀鑑博士などが関係しておられたので、そのあたりのお考えで、個人歌集を概論風に取り扱うことの必要性を感じられ、それには『私家集』という名称が適当だろうとされ、松田への注文があったものと想像される。戦後、池田亀鑑博士の主唱で私家集研究会が開かれ、『私家集研究』という機関誌も発行されたことを思うと、『私家集』という呼称の創造者は池田博士としてさし支えないように思われる」と、論文の題目に用いられたのは、松田武夫博士であるが、創始者は、池田亀鑑博士であると説明されている。

(二) 家集の意義

池田亀鑑博士が、私家集研究会を組織され、「私家集研究の刊行にあたって」の冒頭に、

平安朝文学は、江戸、近代とならんで、日本の文学を飾る三つのピークを成してゐる。ことに、その鑑賞者としても、